

編集 後記

新年度になり、新任地でスタートを切った方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。心機一転、それぞれの職場、立場で今年こそと決意を新たにされていることと存じます。

さて、今年1月から本誌がA4版となりました。雑誌が薄くなり、背表紙が印刷できないのではないかという不安が当初ありましたが、情報ボックスの他、連載も軌道に乗り、その不安も払拭された感があります。私が担当した連載「高齢者保健・福祉」も無事終了しました。タイムリーな企画ではなかったかと自画自賛しておりますが、いかがだったでしょうか。新たに、「親子保健・学校保健」、「運動・身体活動と公衆衛生」などの連載が始まりました。どのような連載を企画するかは編集委員会で検討し、決めたものです。会員の皆様の興味、関心ある分野、内容を取り上げて継続していく予定です。皆様からご提案頂ければ幸いです。

学会誌でもっとも中心にあるべきものは原著、短報、公衆衛生活動報告、資料など会員からの投稿原稿です。査読期間の短縮はここ数年の大きな改善点ですが、投稿数は減少しています。「日本公衆衛生雑誌の査読は厳しい、厳しすぎる」という印象が固定している感があります。不十分な点を指摘するのではなく、どこをどのように改善すればよいかをできるだけ具体的に助言するという、教育的査読を査読者をお願いしています。時々、分析・統計に厳しすぎるのではないかと感じる査読もない訳ではありません。質を保ちつつ、掲載論文が増加するように編集委員会では対応しております。諦めず、査読意見を参考に、果敢に挑戦頂ければ幸いです。

4月からの保険者による特定健診・保健指導の導入、後期高齢者医療制度の開始など、さまざま制度の変革の中、日本公衆衛生学会の担うべき役割は今まで以上に増えています。皆様とともに公衆衛生の向上に貢献したいと考えております。
(安村誠司)

次号予告 (第55巻・第5号)

原 著

- 特定保健指導での活用を目的とした糖尿病発症リスク予測シートの開発……………杉本昌子, 他
- 特別養護老人ホームの入所の緊急性に影響する要因の分析……………岸田研作, 他
- 大学生の性感染症予防に対する意識とコンドームの使用との関係
- 意識尺度の開発と予測性の検討…尼崎光洋, 他
- 新生児訪問指導事業の訪問群・非訪問群における育児不安の実態と比較 Child Rearing Burnout 尺度を用いた分析……………佐藤厚子, 他

公衆衛生活動報告

- ソーシャルサポートを強化したグループ参加による減量プログラムの有効性……………久保田晃生, 他

連 載

- 臨床経済学の基礎(1)……………大久保一郎
- 親子保健・学校保健(3)……………藤原武男
- 運動・身体活動と公衆衛生(3)……………田中喜代次

第55巻3号につきまして下記のとおり訂正願います。

P 169 : Results の1行目 (A, B, and C) → (X, Y, and Z)